

2021（令和3）年度 自己評価結果公表シート

学校法人扇町同胞学園

扇町同胞幼稚園

1、本園の教育目標

キリスト教精神に基づき、それぞれの年齢にふさわしい集団と環境の保障に配慮し、「遊び」を中心とした保育を行う。
幼児の主体的、能動的な意欲を育て、家庭と協力しながら人格形成の基礎を培う。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

主体的に環境にかかわり、いきいきと遊ぶ子どもに育てる。

- ・コロナ感染防止に配慮した活動を工夫し、楽しく取り組める環境と保育を考える。
- ・身体活動が十分に確保できる保育を考える。

教育課程、保育日誌を検討する。

- ・活動の実態に即した教育課程に改善する。
- ・活動のねらいを明確にするため、保育日誌の記入様式を検討する。

防災、防犯、安全について意識を高める

- ・避難訓練を実施し、安全について意識を高め、避難の方法を伝える。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
園児が安心して楽しく過ごせる園生活の充実を図る。 ・コロナ感染拡大防止に配慮した環境づくり ・身体活動が十分確保できる保育内容の工夫	前年度のコロナ感染防止に対応した保育の実践を参考に、環境構成や活動の取り組みを工夫した。 季節ならではの活動や身体を十分に動かし、園児が友だちといっしょに取り組める活動を取り入れ、健やかな発達を目指した保育を進めることができた。 ・密を避ける環境設定を考え、チーム活動を取り入れて園児が活動に十分にに取り組めるよう配慮した。 戸外やホールでは、体操やリズム、ゲームなど身体を十分に使い挑戦したり、競争したり、友だちを応援するなど楽しみながら心身を育む機会となった。 ・チーム活動では、園児が担任以外の教師と関わる機会が増えた。チームは少人数のため、教師はていねいに関わることができ、園児個々の興味、関心に寄りそうことができた。教師が連携し、園児の成長や課題について多面的に考えられる機会となった。

<p>園内の施設、環境について、安全、清潔、衛生の維持に心がける。</p>	<p>前年度の取り組みを参考に、園内の安全、清潔、衛生環境の維持に努力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃方法や、清掃箇所等教師間で共有分担しスムーズに清潔な環境維持ができるように努めた。 ・一日の活動内容から園児の動線を予測し、密の回避に努力した。(活動、トイレ、昼食、移動時など) ・各保育室に抗菌、抗ウイルスカーテンを新調した。2Fテラスの日よけテントを設置し、テラスおよび保育室内の気温上昇が緩和でき、園児は快適に過ごすことができた。
<p>保育の質の向上を目指し、教師の研修参加と学びの時間を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会への参加 ・教育課程の改善 ・保育日誌の検討 	<p>保育内容に多くの制限がある中、年間カリキュラムに添って保育実践ができるよう教職員で話し合いを重ね、研修会に積極的に参加し学びを深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会はオンライン研修が主であったが、できる限り参加し、教職員で共有し保育実践に繋いだ。 ・保育の実態を鑑み、実態に即した教育課程について教師間で意見を出し合い学べる環境作りとなった。保育の振り返り、活動のねらいや環境設定、援助の在り方などを考え、教育課程の改善を行なった。 ・チーム保育では複数の教師が園児に関わるため、保育日誌を検討し、活動内容、園児の動きを予測し、ねらいを明確化した保育日誌に変更した。教師間で活動の共有、連携により、園児により良い関わりをすることができた。
<p>防災、防犯、安全について意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を実施する。 	<p>全園児が同時に避難訓練を実施することが難しく、クラスごとに担任から生命の大切さや、災害時等の身の守り方について伝えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市消防振興会より1名来園、火災時の園児の避難について各クラスの様子を見ていただいた。 ・年長、年中クラスの参加で、警察署(4名)による防犯教室を実施した。防犯について意識を持ち、身の周りの安全について考える機会となった。 ・地震災害時の全園児の避難訓練は未実施となった。クラスごとに地震時の避難について、防災頭巾被り方や避難の方法について話し合った。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

前年度のコロナの感染防止に配慮した保育内容を参考に園児の健康環境を維持し、日々の保育活動、行事の充実努力した。誕生会、運動会など全園児が集まる活動が出来ず、分散して行った。園児が活動に取り組み、行事に参加することを楽しむ過程で、多くの力が育まれることを実感できた。活動のねらいを明確にし、教職員が共有、協力することから園児により良い援助をすることができた。

研修会や教育課程の検討を通し教職員が話し合い、保育の振り返りや援助の方法、課題について考え、保育に活かせることができた。

災害時の緊急対応について十分な取り組みができず、今後も教職員が十分話し合い、避難訓練の実施を継続し、用品、備蓄の確認の必要性を感じた。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全、衛生管理	園内環境の安全、衛生を心がけ、チェック表を作成し、点検箇所を意識を持つように心がける。 緊急時について教職員で共有し、災害時の対応に備える。 必要な用品の点検、準備をする。
家庭との連携	状況に応じた園生活の様子を伝え、保育の意味やねらい、育てる力について伝える。 写真掲示や写真だよりを通し、園児がみんなと一緒に楽しむ姿や保育の様子の可視化に努める。
教職員の研修参加と保育の質の向上	保育内容の充実を目指し、保育技術の学びを深め教職員の質の向上を図る。 研修内容を吟味し内容が偏らず、学びの多様化の機会を増やす

6、学校関係者の評価

学校評価委員会において、コロナの感染状況に対応した保育を実施し、楽しく園生活を過ごし、園児の成長する姿が見られたこと、園児についての相談に迅速に対応するなど、きめ細やかな保育実践がなされたことに評価がなされた。

災害時の緊急事態に備えた準備と事故やトラブルの対応など、教職員で共通理解し、より良い対応を図るよう要望があった。

7、財務状況

公認会計士外部監査により、経営上適正に運営されていると認められている。

